

AXIS Q19 Series

AXIS Q1941-E Thermal Network Camera

AXIS Q1942-E Thermal Network Camera

AXIS Q19 Series

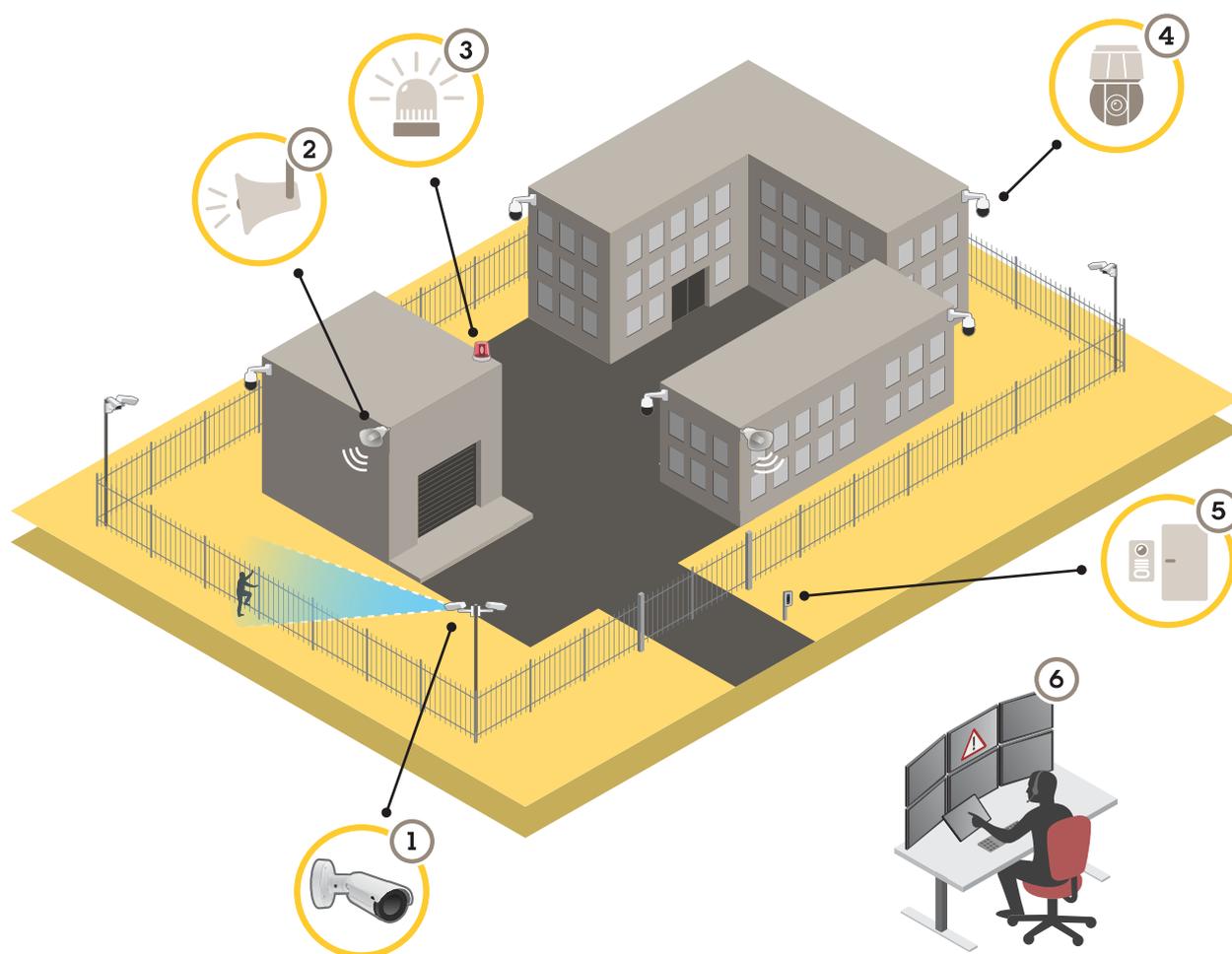
目次

ソリューションの概要	3
周辺保護について	3
設定	5
製品のアクセス方法	5
本製品に内蔵されているヘルプについて	6
アプリケーションについて	6
点滅ビーコンの接続方法	7
ネットワークホーンスピーカーの接続方法	9
帯域幅とストレージ容量を削減する方法	10
日常的な使用	11
カラーパレットについて	11
トラブルシューティング	12
工場出荷時の設定にリセットする方法	12
現在のファームウェアの確認方法	12
ファームウェアのアップグレード方法	12
技術的な問題、ヒント、解決策	13
パフォーマンスに関する一般的な検討事項	14
仕様	16
製品の概要	16
LEDインジケータ	16
SDカードスロット	17
ボタン	17
コネクタ	17

AXIS Q19 Series

ソリューションの概要

ソリューションの概要



- 1 AXIS Q1941-E/Q1942-E (AXIS Perimeter Defender付き)
- 2 ホーンスピーカー
- 3 点滅ビーコン
- 4 PTZネットワークカメラ
- 5 ドアコントローラー
- 6 監視センター

周辺保護について

侵入検知が必要なエリアでは、分析ソフトウェア内蔵のサーマルカメラを使用して周辺保護を設定することができます。周辺保護の主な目的は、脅威や実際の侵入をできるだけ早い段階で検知することです。

周辺保護を設定するには、境界線の監視と周辺保護のための分析アプリケーションをサーマルカメラにインストールする必要があります。Axisでは、この目的でAXIS Perimeter Defenderアプリケーションを提供しています。AXIS Perimeter Defenderの詳細については、www.axis.comを参照してください。

AXIS Q19 Series

ソリューションの概要

- 点滅ビーコン (3) を使用して、侵入者になりそうな人に周辺が保護されていることを知らせます (7 ページの点滅ビーコンの接続方法を参照)。
- さらに警告を発して侵入を思いとどませるには、事前に録音された警告メッセージを再生するホーンスピーカー (2) を接続します (9 ページのネットワークホーンスピーカーの接続方法を参照)。

AXIS Q19 Series

設定

設定

製品のアクセス方法

ネットワーク上でAxis製品を検索したり、Windows®でAxis製品にIPアドレスを割り当てたりするには、AXIS IP UtilityまたはAXIS Camera Managementの使用をお勧めします。いずれのアプリケーションも無料で、axis.com/supportからダウンロードできます。

製品は次のブラウザで使用できます。

- Chrome™ (推奨)、Firefox®、Edge®、またはOpera® (Windows®を使用する場合)
- Chrome™ (推奨)、またはSafari® (OS X®を使用する場合)
- Chrome™またはFirefox® (その他のオペレーティングシステムの場合)

推奨されるブラウザの詳細な情報については、axis.com/browser-supportにアクセスしてください

ブラウザから本製品へのアクセス方法

1. Webブラウザを起動します。
2. ブラウザのアドレスフィールドに、本製品のIPアドレスまたはホスト名を入力します。

Macコンピューター (OS X) から本製品にアクセスするには、SafariでBonjourをクリックし、ドロップダウンリストから本製品を選択します。Bonjourをブラウザのブックマークとして追加するには、[Safari > Preferences (Safari > 設定)] に移動します。

本製品のIPアドレスが不明な場合には、AXIS IP Utilityを使用して、ネットワーク上で本製品を特定します。IPアドレスの検出や割り当てを行う方法については、Axisのサポートホームページ (axis.com/support) にあるドキュメント『IPアドレスの割り当てとビデオストリームへのアクセス』を参照してください。

3. ユーザー名とパスワードを入力します。初めて本製品にアクセスする場合は、最初にルートパスワードを設定する必要があります。
4. ブラウザーで製品のライブビューページが開きます。

安全なパスワードについて

重要

Axisデバイスは、最初に設定されたパスワードをネットワーク上で平文で送信します。最初のログイン後にデバイスを保護するために、安全で暗号化されたHTTPS接続を設定してからパスワードを変更してください。

デバイスのパスワードは主にデータおよびサービスを保護します。Axisデバイスは、さまざまなタイプのインストーラーで使用できるようにするためパスワードポリシーを強制しません。データを保護するために、次のことをお勧めします。

- デバイスに付属するデフォルトのパスワードを変更する。
- 8文字以上のパスワードを使用する (できればパスワード生成プログラムで作成する)。
- パスワードを公開しない。
- 一定の期間ごとにパスワードを変更する (少なくとも年に1回)。

rootアカウントの安全なパスワードを設定する

重要

デフォルトの管理者ユーザー名rootは削除できません。rootのパスワードを忘れた場合は、デバイスを工場出荷時の設定にリセットする必要があります。

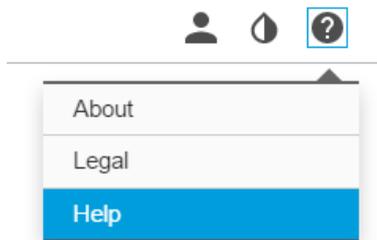
AXIS Q19 Series

設定

1. 安全なパスワードを設定する手順に従ってください。5 ページの安全なパスワードについてを参照してください。
2. パスワードを入力後、パスワードを再入力してスペルを確認します。
3. [Create login (ログインの作成)] をクリックします。これでパスワードが設定されました。

本製品に内蔵されているヘルプについて

製品のWebページから内蔵のヘルプにアクセスできます。このヘルプでは、製品の機能やその設定に関する詳細情報を提供しています。



アプリケーションについて

AXIS Camera Application Platform (ACAP) は、サードパーティによるAxis製品向けの分析アプリケーションやその他のアプリケーションの開発を可能にするオープンプラットフォームです。入手可能なアプリケーション、アプリケーションのダウンロード、試用版アプリケーション、およびライセンスの詳細については、axis.com/applicationsを参照してください。

Axisアプリケーションのユーザーズマニュアルについては、axis.comを参照してください。

注意

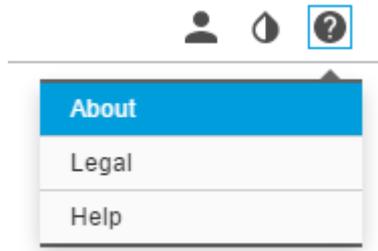
- 同時に複数のアプリケーションを実行することも可能ですが、中には互換性のないアプリケーションもあります。アプリケーションの特定の組み合わせによっては、並行して実行すると過度の処理能力やメモリーリソースが必要になる場合があります。アプリケーションを展開する前に、同時に実行できることを確認してください。

アプリケーションのライセンスについて

一部のアプリケーションの実行にはライセンスが必要です。ライセンスは以下の2つの方法でインストールすることができます:

- 自動インストーラー – インターネットへのアクセスが必要です。
- 手動インストーラー – アプリケーションベンダーからライセンスキーを入手して、本製品にアップロードします。

ライセンスを要求するには、本製品のシリアル番号 (S/N) が必要です。シリアル番号は、本製品のラベルの「**About (製品情報)**」の下に記載されています。



カメラにアプリケーションをインストールする方法

注意

ソフトウェアライセンスは、1台のカメラにのみ有効です。新しい登録キーなしで、別のカメラでそのソフトウェアをアクティブ化することはできません。

1. 7.10以降のファームウェアを搭載している製品の場合は、**[設定 > アプリ]**に移動してアプリケーションをインストールします。
6.50以前のファームウェアを搭載している製品の場合は、**[設定 > アプリケーション]**に移動してアプリケーションをインストールします。
2. アプリケーションファイル(.eap)をカメラにアップロードします。
3. ライセンスをアクティブ化します。オンラインになっている場合は、ライセンスコードを入力します。アプリケーションが自動的にライセンスをアクティブ化します。
詳しい手順については、製品に組み込まれているヘルプを参照してください。
4. アプリケーションを設定するには、「[7ページのアプリケーションの設定にアクセスする方法](#)」を参照してください。

オフラインのときにライセンスをアクティブ化する方法

ライセンスをアクティブ化するには、ライセンスキーが必要です。ライセンスキーがコンピューターに保存されていない場合は、以下の手順に従います。

1. www.axis.comにアクセスします。
2. ライセンスキーを入手するには、ライセンスコードとAxis製品のシリアル番号が必要です。
3. アプリケーションに求められたときに選択できるように、ライセンスキーファイルをコンピューターに保存します。

アプリケーションの設定にアクセスする方法

1. 特定のアプリケーションの設定にアクセスするには、次のいずれかの操作を行います。
 - 7.10以降のファームウェアを搭載している製品の場合は、**[設定 > アプリ]**に移動してアプリケーションを選択し、**[開く]**をクリックしてアプリケーションの設定を開きます。
 - 6.50以前のファームウェアを搭載している製品の場合は、**[ライブビュー]**ボタンをクリックするか、**[設定 > アプリケーション > [アプリケーション名]]**に移動し、設定のリンクをクリックしてアプリケーションの設定を開きます。

点滅ビーコンの接続方法

点滅ビーコンを使用すると、侵入者になりそうな人に周辺が保護されていることを知らせることができます。

AXIS Q19 Series

設定

このシナリオでは、点滅ビーコンを接続し、サーマルカメラが侵入を検知したときに点灯するように設定する方法について説明します。このシナリオでは、ビーコンは営業時間外(月曜～金曜の18:00～08:00)のアラームによってのみ点灯を有効にすることができ、有効になるたびに30秒点灯します。

必要なハードウェア

- マルチケーブル(17ページのマルチコネクタを参照)
- 接続ワイヤー(青1本と赤1本、最小面積: 0.25 mm²、最大面積: 0.5 mm²)
- 点滅ビーコン(12 V DC、最大50 mA)

注意

接続ワイヤーの最大長は、ワイヤーの面積とビーコンの電力消費によって異なります。

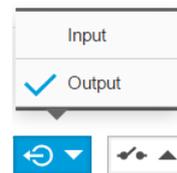
物理接続

1. マルチケーブルをカメラに接続します。
2. 赤いワイヤーをマルチケーブルI/Oターミナルコネクタのピン2(DC出力+12 V DC)に接続します。
3. 赤いワイヤーのもう一方の端を、点滅ビーコンの+マーク付きコネクタに接続します。
4. 青いワイヤーをマルチケーブルI/Oターミナルコネクタのピン3(I/Oポート)に接続します。
5. 青いワイヤーのもう一方の端を、点滅ビーコンの-マーク付きコネクタに接続します。

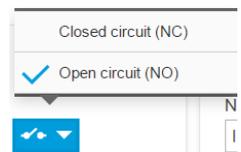
I/Oポートの設定

カメラのWebページで、点滅ビーコンをカメラに接続する必要があります。この最初の部分はI/Oポートの設定です。

1. [System (システム)] > [I/O ports (I/Oポート)] の順に移動します。



2. [Port 1 (ポート1)] ドロップダウンリストから [Output (出力)] を選択します。
3. 出力モジュールに分かりやすい名前を付けます (「Flashing beacon」など)。



4. イベントがトリガーされるたびにビーコンが点灯を開始するように設定するには、ドロップダウンリストから [Open circuit (開路)] を選択します。

アクションルールの作成

何かが検知されたときにカメラからビーコンに通知を送って点灯を開始するには、次のようにカメラでアクションルールを作成する必要があります。

1. [System (システム)] > [Events (イベント)] > [Action rules (アクションルール)] の順に移動します。
2. [Add (追加)] をクリックします。
3. [Enable rule (ルールを有効にする)] を選択し、アクションルールの名前(たとえば「Flashing beacon」)を入力します。

AXIS Q19 Series

設定

4. [Trigger (トリガー)] ドロップダウンリストから [Applications (アプリケーション)] を選択します。
5. ドロップダウンリストから周辺保護アプリケーションを選択します。
6. [Schedule (スケジュール)] を [After hours (営業時間外)] に設定します。
7. [Type (タイプ)] ドロップダウンリストから [Output port (出力ポート)] を選択します。
8. [Port (ポート)] ドロップダウンリストから [Flashing beacon (点滅ビーコン)] を選択します。
9. 期間を30秒に設定します。
10. [Ok] をクリックします。

ネットワークホーンスピーカーの接続方法

ネットワークホーンスピーカーは、侵入者になりそうな人に警告したり侵入を防いだりするために使用します。

このシナリオでは、Axisネットワークホーンスピーカーをカメラに接続し、サーマルカメラが侵入を検知したときにオーディオクリップを再生するように設定する方法について説明します。このシナリオでは、ホーンスピーカーは営業時間外(月曜～金曜の18:00～08:00)のアラームによってのみ有効にすることができます。

送信先の設定

注意

オーディオクリップがホーンスピーカー内に存在しており、その番号を知っている必要があります。オーディオクリップの番号を調べるには、次のコマンドを入力します。
`http://[HornSpeakerIP]/axis-cgi/param.cgi?action=list` ([HornSpeakerIP]はホーンスピーカーのIPアドレスです)。番号は、表示されるリスト内の文字Mの後に表示されます。

カメラでホーンスピーカーを送信先として設定することにより、カメラをホーンスピーカーに接続します。

1. [Settings > System (設定 > システム)] > [Events > Recipients (イベント > 送信先)] の順に移動します。
2. [Add (追加)] をクリックします。
3. 送信先の名前(たとえば「Horn speaker」)を入力します。
4. [Type (タイプ)] ドロップダウンリストから [HTTP] を選択します。
5. URLのフィールドに「`http://[HornSpeakerIP]/axis-cgi/playclip.cgi?clip=[x]`」と入力します ([HornSpeakerIP]はホーンスピーカーのIPアドレスであり、[x]はオーディオクリップの番号です)。
6. [Login Credentials (ログイン認証情報)] の下に、ホーンスピーカーのユーザー名とパスワードを入力します。
7. [OK] をクリックします。

アクションルールの作成

何かを検知されたときにカメラからホーンスピーカーに通知を送ってオーディオクリップを再生するには、次のようにカメラでアクションルールを作成します。

1. [Settings > System (設定 > システム)] > [Events > Action rules (イベント > アクションルール)] の順に移動します。
2. [Add (追加)] をクリックします。
3. アクションルールの名前(たとえば「Horn speaker」)を入力します。
4. トリガーのリストから [Applications (アプリケーション)] を選択し、周辺保護アプリケーションを選択します。

AXIS Q19 Series

設定

5. [Schedule (スケジュール)] を [After hours (営業時間外)] に設定します。
6. アクションのリストから [Send notification (通知の送信)] を選択し、[Horn speaker (ホーンスピーカー)] を選択します。
7. [OK] をクリックします。

帯域幅とストレージ容量を削減する方法

重要

帯域幅を削減すると、画像の詳細度が失われる可能性があります。

1. ライブビューに移動し、[H.264] を選択します。
2. [Settings > Stream (設定 > ストリーム)] に移動します。
3. 以下の操作を1つ以上実行します。
 - Zipstream機能をオンにし、希望のレベルを選択する。
 - ダイナミックGOPをオンにし、GOP長を高い値に設定する。
 - 圧縮度を増やす。
 - ダイナミックFPSをオンにする。

AXIS Q19 Series

日常的な使用

日常的な使用

カラーパレットについて

熱画像に適用されたカラーパレットは、人間の目が画像の詳細を識別するのに役立ちます。パレット内の色は、温度の違いを強調するために人工的に作り出された疑似カラーです。

カラーパレットに関する推奨事項

本製品には選択可能な複数のカラーパレットがあります。オペレーターがビデオストリームを見る場合は、いずれかのパレットを選択します。ビデオストリームがアプリケーションによってのみ使用される場合は、ホワイトホットパレットを選択します。

AXIS Q19 Series

トラブルシューティング

トラブルシューティング

工場出荷時の設定にリセットする方法

重要

工場出荷時の設定へのリセットは慎重に行ってください。工場出荷時の設定へのリセットを行うと、IPアドレスを含むすべての設定が工場出荷時の値にリセットされます。

本製品を工場出荷時の設定にリセットするには、以下の手順を実行します。

1. 本製品の電源を切ります。
2. コントロールボタンを押した状態で電源を再接続します。16ページの製品の概要を参照してください。
3. ステータスLEDインジケーターが黄色に点滅するまで、コントロールボタンを15～30秒間押し続けます。
4. コントロールボタンを離します。プロセスが完了すると、ステータスLEDが緑色に変わります。これで本製品は工場出荷時の設定にリセットされました。ネットワーク上に利用可能なDHCPサーバーがない場合、デフォルトのIPアドレスは192.168.0.90になります。
5. インストールおよび管理ソフトウェアツールを使用してIPアドレスの割り当て、パスワードの設定、ビデオストリームへのアクセスを行います。

axis.com/supportのサポートページに、インストールおよび管理ソフトウェアツールが用意されています。

Webインターフェースを使用して、各種パラメーターを工場出荷時の設定に戻すこともできます。**Settings > System > Maintenance (設定 > システム > メンテナンス)**を選択し、**Default (デフォルト)**をクリックします。

現在のファームウェアの確認方法

ファームウェアは、ネットワークデバイスの機能を決定するソフトウェアです。問題のトラブルシューティングを行う際には、まず、現在のファームウェアバージョンを確認してください。最新バージョンには、特定の問題の修正が含まれていることがあります。

現在のファームウェアを確認するには:

1. 本製品のWebページに移動します。
2. ヘルプメニューをクリックします。 
3. [About (バージョン情報)] をクリックします。

ファームウェアのアップグレード方法

重要

事前設定済みの設定とカスタム設定は、(その機能が新しいファームウェアで利用できる場合)、ファームウェアのアップグレード時に保存されます。ただし、この動作をAxis Communications ABが保証しているわけではありません。

重要

アップグレードプロセス中は、本製品を電源に接続したままにしてください。

AXIS Q19 Series

トラブルシューティング

注意

最新のファームウェアをダウンロードして製品をアップグレードすると、製品に最新機能が追加されます。ファームウェアを更新する前に、ファームウェアとともに提供されるアップグレード手順とリリースノートを必ずお読みください。最新ファームウェアおよびリリースノートについては、axis.com/support/firmwareを参照してください。

1. 最新のファームウェアファイルをコンピューターにダウンロードします。ファームウェアファイルはwww.axis.com/support/firmwareから無料で入手できます。
2. 製品には管理者としてログインしてください。
3. 製品のWebページで、**[Settings > System > Maintenance (設定 > システム > 保守)]**に移動し、手順に従ってください。アップグレードが完了すると、製品は自動的に再起動します。

アップグレードを行う対象が複数の場合は、AXIS Camera Managementを使用できます。詳細はaxis.com/products/axis-camera-managementをご覧ください。

技術的な問題、ヒント、解決策

このページで解決策が見つからない場合は、axis.com/supportのセクションに記載されているトラブルシューティングを行ってください。

ファームウェアのアップグレードで問題が発生する

ファームウェアのアップグレード失敗	ファームウェアのアップグレードに失敗した場合、製品は以前のファームウェアを再度読み込みます。不正なファームウェアファイルがアップロードされていることが最もよくある原因です。製品に対応したファームウェアファイル名であることを確認し、再試行してください。
-------------------	---

IPアドレスの設定で問題が発生する

本製品が別のサブネット上にある	本製品用のIPアドレスと本製品へのアクセスに使用するコンピューターのIPアドレスが異なるサブネットにある場合は、IPアドレスを設定できません。ネットワーク管理者に連絡して、適切なIPアドレスを取得してください。
IPアドレスが別のデバイスで使用されている	本製品をネットワークから切断します。pingコマンドを実行します(コマンドウィンドウまたはDOSウィンドウで、pingコマンドと製品のIPアドレスを入力します)。 <ul style="list-style-type: none">• もし、「Reply from <本製品のIPアドレス>: bytes=32; time=10...」という応答を受取った場合は、ネットワーク上の別のデバイスでIPアドレスがすでに使用中の可能性があります。ネットワーク管理者から新しいIPアドレスを取得し、本製品を再度インストールしてください。• もし、「Request timed out」が表示された場合は、本製品でそのIPアドレスを使用できません。この場合は、すべてのケーブル配線をチェックし、本製品を再度インストールしてください。
同じサブネット上の別のデバイスとIPアドレスが競合している可能性がある	DHCPサーバーによって動的アドレスが設定される前は、本製品の静的IPアドレスが使用されます。つまり、デフォルトの静的IPアドレスが別のデバイスでも使用されていると、本製品のアクセスに問題が発生する可能性があります。

AXIS Q19 Series

トラブルシューティング

ブラウザから本製品にアクセスできない

ログインできない	HTTPSが有効な場合は、正しいプロトコル (HTTPまたはHTTPS) を使用してログインしてください。ブラウザのアドレスフィールドに、手動で「http」または「https」と入力する必要がある場合があります。 rootユーザーのパスワードを忘れた場合は、製品を工場出荷時の設定にリセットする必要があります。12ページの工場出荷時の設定にリセットする方法を参照してください。
DHCPによってIPアドレスが変更された	DHCPサーバーから取得したIPアドレスは動的なアドレスであり、変更されることがあります。IPアドレスが変更された場合は、AXIS IP UtilityまたはAXIS Camera Managementを使用して本製品のネットワーク上の場所を特定してください。本製品のモデルまたはシリアル番号、あるいはDNS名 (設定されている場合) を使用して製品を識別します。 必要に応じて、静的IPアドレスを手動で割り当てることができます。手順については、 axis.com/support を参照してください。
IEEE 802.1X使用時の証明書エラー	認証を正しく行うには、本製品の日付と時刻をNTPサーバーと同期させなければなりません。[Settings > System > Date and time (設定 > システム > 日付と時刻)]の順に移動します。

本製品にローカルにアクセスできるが、外部からアクセスできない

ルーターの設定	ルーターでAxis製品への着信データトラフィックが許可されているか確認してください。ルーターはUPnP®に対応している必要があります。
ファイアウォールによる保護	インターネットのファイアウォールについて、ネットワーク管理者に確認してください。

ストリーミングの問題

ローカルクライアントもしくはマルチキャストH.264にアクセスできない	ルーターがマルチキャストをサポートしているかどうか、またはクライアントと本製品間のルーター設定を行う必要があるかどうかを確認してください。TTL (Time To Live) 値を上げる必要がある場合もあります。
H.264のマルチキャスト画像がクライアントで表示されない	Axis製品で使用されたマルチキャストアドレスが有効かどうか、ネットワーク管理者に確認してください。 ファイアウォールが表示を妨げていないかどうか、ネットワーク管理者に確認してください。
H.264画像のレンダリング品質が悪い	グラフィックカードで最新のデバイスドライバーが使用されていることを確認してください。最新のドライバーは、通常、メーカーのWebサイトからダウンロードできます。
フレームレートが予想したレートより低い	<ul style="list-style-type: none">14ページのパフォーマンスに関する一般的な検討事項を参照してください。クライアントコンピュータで実行されているアプリケーションの数を減らします。同時監視者の数を制限します。使用可能な帯域幅が十分かどうか、ネットワーク管理者に確認します。画像の解像度を下げます。本製品の周波数 (60/50 Hz) によって、最大フレーム/秒は異なります。

パフォーマンスに関する一般的な検討事項

システムを設定する際には、さまざまな設定や条件がシステムのパフォーマンスにどのように影響するかを検討することが重要です。ある要因は必要な帯域幅の量 (ビットレート) に影響し、他の要因はフレームレート

AXIS Q19 Series

トラブルシューティング

に影響し、帯域幅とフレームレートの両方に影響する事柄もあります。CPUの負荷が最大に達した場合も、フレームレートに影響を及ぼします。

最も重要な検討事項には次のようなものがあります。

- 画像解像度が高い、または圧縮率が低いと、画像のファイルサイズが増大し、結果的に帯域幅に影響を及ぼします。
- Motion JPEGまたはユニキャストH.264を使用するクライアントのアクセス数が多すぎると帯域幅に影響を及ぼします。
- 様々なクライアントが様々な解像度や圧縮方式が異なるストリームを同時に閲覧すると、フレームレートと帯域幅の両方に影響を及ぼします。
フレームレートを高く維持するために、できる限り同一ストリームを使用してください。ストリームプロファイルを使用すると、ストリームを同一に揃えることができます。
- Motion JPEGおよびH.264のビデオストリームに同時にアクセスすると、フレームレートと帯域幅の両方に影響を及ぼします。
- イベント設定を多用すると、製品のCPU負荷に影響が生じ、その結果、フレームレートに影響します。
- 特に、Motion JPEGのストリーミングでは、HTTPSを使用するとフレームレートが低くなる場合があります。
- インフラストラクチャーが貧弱なネットワークの使用率が高いと帯域幅に影響します。
- パフォーマンスの低いクライアントコンピューターで閲覧すると感知するパフォーマンスが低くなり、フレームレートに影響します。
- 複数のAXIS Camera Application Platform (ACAP) アプリケーションを同時に実行すると、フレームレートと全般的なパフォーマンスに影響する場合があります。
- パレットを使用すると、製品のCPU負荷に影響が生じ、その結果、フレームレートに影響します。

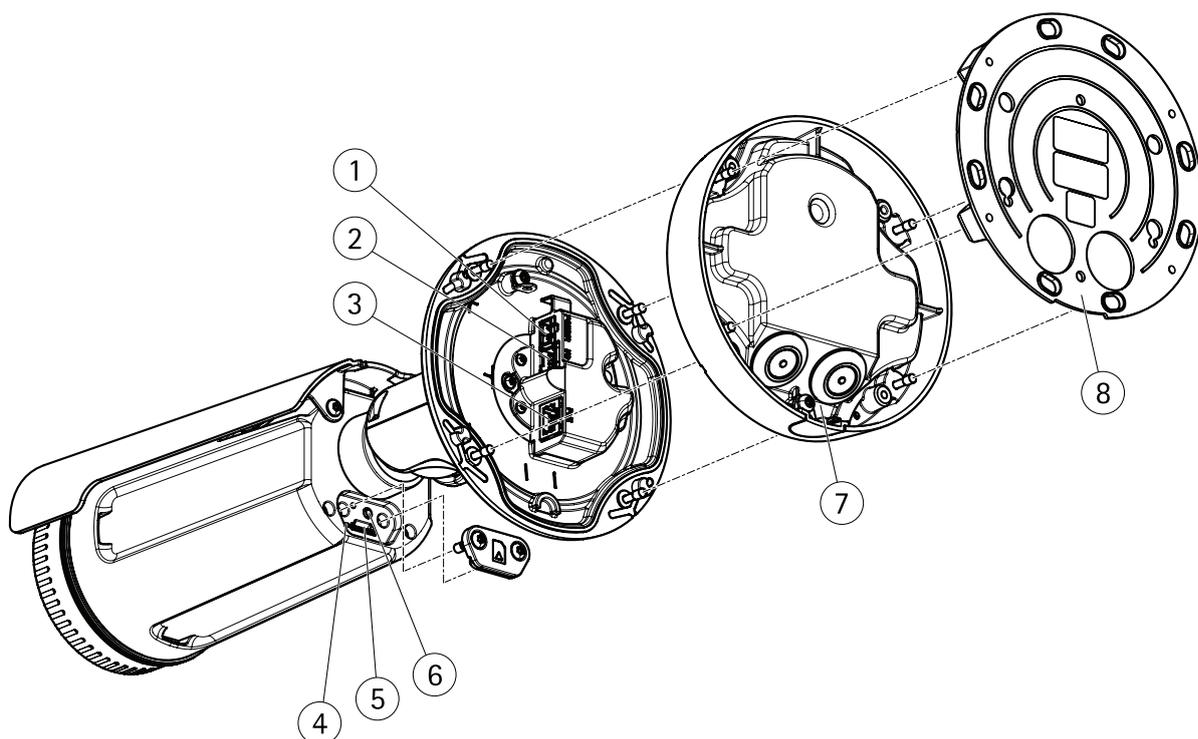
AXIS Q19 Series

仕様

仕様

最新バージョンの製品のデータシートについては、axis.comで本製品のページを開いて「サポートとドキュメント」へお進みください。

製品の概要



- 1 電源コネクタ
- 2 I/Oおよび音声ターミナルコネクタ (マルチコネクタ)
- 3 ネットワークコネクタ
- 4 ステータスインジケータLED
- 5 microSDメモリーカードスロット
- 6 コントロールボタン
- 7 脚
- 8 取付ブラケット

LEDインジケータ

ステータスLED	説明
無点灯	接続時と正常動作時は、無点灯のままです。
緑	接続時と正常動作時は、無点灯のままです。
黄	起動時に点灯し、ファームウェアのアップグレード時と工場出荷時設定へのリセット時に点滅します。

AXIS Q19 Series

仕様

黄/赤	ネットワーク接続が利用できないか、失われた場合は、黄色/赤色で点滅します。
赤	ファームウェアのアップグレード失敗。

SDカードスロット

▲注意

 損傷の危険があります。可動部分。動作中は、体を製品に近づけないでください。製品の設置やメンテナンスを行う前に、電源を切ってください。

▲注意

 損傷の危険があります。表面が熱くなります。動作中は、本製品に触れないでください。製品のメンテナンスを行う前に、電源を切り、表面が冷えるまで待ってください。

注記

- SDカード損傷の危険があります。SDカードの挿入と取り外しの際には、鋭利な工具や金属性の物を使用したり、過剰な力をかけたりしないでください。カードの挿入や取り外しは指で行ってください。
- データ損失や録画データ破損の危険があります。本製品の稼働中はSDカードを取り外さないでください。取り外しの前に、製品のWebページからSDカードをマウント解除してください。

本製品は、microSD/microSDHC/microSDXCカードに対応しています (別売)。

推奨するSDカードについては、axis.comを参照してください

ボタン

コントロールボタン

コントロールボタンの位置については、16ページの製品の概要を参照してください。

コントロールボタンは、以下の用途で使用します。

- 製品を工場出荷時の設定にリセットする。12ページを参照してください。
- AXIS Video Hosting Systemサービスに接続する。を参照してください。接続するには、ステータスLEDが緑色に点滅するまで、ボタンを押し続けます (約3秒間)。

コネクタ

電源コネクタ

AC/DC電源を接続するためのターミナルコネクタ。

ネットワークコネクタ

RJ45イーサネットコネクタ、Power over Ethernet (PoE) 対応。

マルチコネクタ

以下の外部装置を接続するターミナルコネクタ:

- 音声装置
- 入出力 (I/O) デバイス

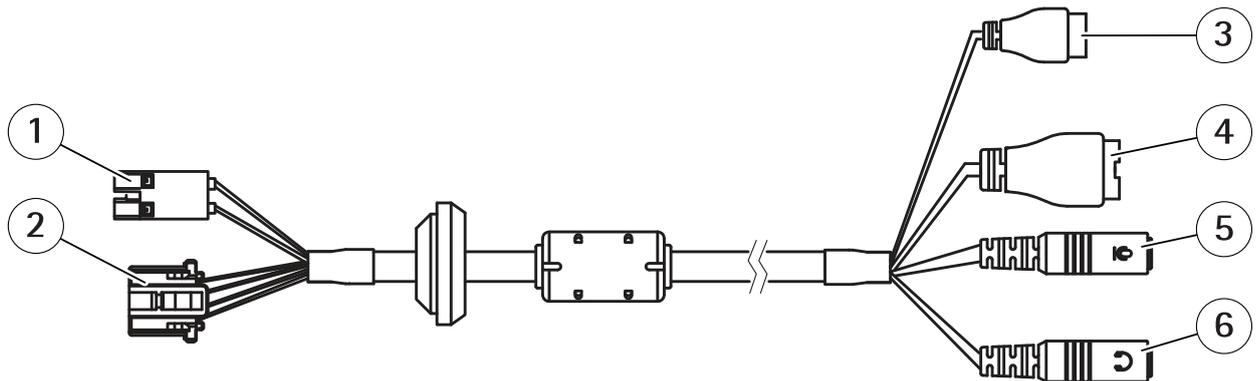
AXIS Q19 Series

仕様

- DC電源

外部装置を接続する場合、本製品のIP定格を維持するため、別売のAxisマルチケーブルが必要になります。詳細については、18ページのマルチケーブルコネクタを参照してください。

マルチケーブルコネクタ



マルチケーブルの概要

- 1 カメラ電源コネクタ
- 2 カメラマルチコネクタ
- 3 電源コネクタ
- 4 I/Oターミナルコネクタ
- 5 音声入力(ピンク)
- 6 音声出力(緑)

マルチケーブルには、以下のコネクタがあります。

電源コネクタ - 電源入力用2ピンターミナルブロック。ケーブルの極性はどちらでもかまいません。定格出力が100 W以下または5 A以下の安全特別低電圧 (SELV) に準拠した有限電源 (LPS) を使用してください。



音声入力(ピンク) - モノラルマイクロフォンまたはラインインモノラル信号用(左チャンネルはステレオ信号で使用) 3.5 mm入力。

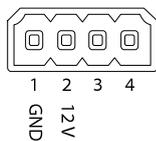
音声出力(緑) - 3.5 mm音声(ラインレベル) 出力(パブリックアドレス (PA) システムまたはアンプ内蔵アクティブスピーカーに接続可能)。音声出力には、ステレオコネクタを使用する必要があります。

I/Oターミナルコネクタ - 外部装置を接続し、カメラに対するいたずらの警報、動体検知、イベントトリガー、アラーム通知などを使用することができます。I/Oコネクタは、0 V DC基準点と電力 (DC出力) に加えて、以下のインターフェースを提供します。

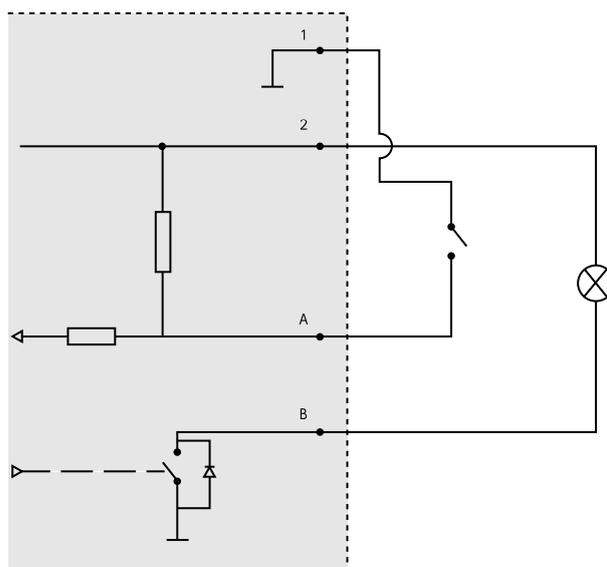
- デジタル出力 - リレーやLEDなどの外部デバイスを接続します。接続されたデバイスは、VAPIX®アプリケーションプログラミングインターフェースまたは製品のWebページで有効にすることができます。
- デジタル入力 - オープンサーキットとクローズサーキットの切り替えが可能な外部デバイス (PIR検知器、ドア/窓の接触、ガラス破損検知器など) を接続するための入力です。

AXIS Q19 Series

仕様



機能	ピン	備考	仕様
0 V DC (-)	1		0 V DC
DC出力	2	補助装置の電源供給に使用できます。 注: このピンは、電源出力としてのみ使用できません。	12 V DC 最大負荷 = 50 mA
設定可能 (入力または出力)	3-4	デジタル入力 - 動作させるにはピン1に接続し、動作させない場合はフロート状態 (未接続) のままにします。	0~30 V DC (最大)
		デジタル出力 - 動作させるにはピン1に接続し、動作させない場合はフロート状態 (未接続) のままにします。誘導負荷 (例: リレー) とともに使用する場合は、過渡電圧から保護するために、ダイオードを負荷と並列に接続する必要があります。	0~30 V DC (最大)、 オープンドレイン、 100 mA



- 1 0 V DC (-)
- 2 DC出力12 V、最大50 mA
- A I/O (入力として設定)
- B I/O (出力として設定)

